

J R E L 情報

仙台地本

J R 東労働組合仙台地方本部情報
2019年11月24日

発行責任者 武田 浩之
編集責任者 情 宣 部

No.022

復興はまだまだ進んでいません！

現地に立って分かることがありました。

ボランティア参加者の感想です！

3連休明けで、ボランティアの人数が少なくなっていました。依頼されたのは自宅周りの稲わらの除去と運搬でした。今回が2回目の要請との事でしたが、今回でも除去しきれないほどの量でした。

浸水当日、自宅には92歳の女性が一人でいましたが、床上浸水で浮かんだ畳の上に乗っていたので、助かったということでした。過去に2度ほど床下浸水は記憶にあるが床上浸水は初めてだということでした。

「もう被災したままにするかとも悩んだ。自分たちではどうにもできないと思っていた。来て貰って感謝」と言っていたきました。一緒に作業したボランティアの方々は、それぞれ宮城県内から個人で参加した人で、その内の一人は東日本大震災で被災した方でした。(11月5日丸森)



20人のパーティーを組み、ボランティアセンターのマイクロバスで依頼宅に向かいました。

バスの運転手が「この辺りは丸森町の中でも一番被害が大きかった場所」と話しました。いまだに手付かずのお宅も多く、泥かき、家財道具の運搬がメインでした。

一緒に行った妻から「被災者の方が少しでも早く元の生活に戻れたら」「ボランティアに参加してみないとわからないことが多くあった」「泥かきなどの大変さはやったみて初めて分かった」との感想がありました。

(11月9日丸森)

**一日でも早い復興を願い、
私たちJRひがし労は
活動を続けます！**

ボランティア感想は今後もお伝えします。